

# 町医者だより

令和07年09月号

## 非アレルギー性鼻炎 (NAR)

<発行・お問合せ先>

おおわだ内科呼吸器内科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

シャポー本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポー改札口)

2分ミスタードーナツ並び

ヘアサロンAsh向かいビル2階

電話 047-379-6661

おおわだ  
内科  
呼吸器内科

日本では不思議なことに鼻水や鼻詰まりなどの症状が出るとなんでもアレルギー性鼻炎ですね、となってしまいます。実は非アレルギー性鼻炎があってその80%は血管作動性鼻炎、鼻過敏症、神経原性鼻炎、あるいは突発性鼻炎と言われるもので、Journal of Allergy Clin Immunol Pract誌の総説(2024; 12: 1436-47)を見ると近年ではNAR (nonallergic rhinopathy) と呼ぶことを推奨しています。鼻症状が、化学物質や気候変化で引き起こされます。NARの典型例は冷たい乾いた空気で誘発されますが、それ以外にも香水やたばこの煙、揮発性の有機物などで誘発されますが、三叉神経にあるTRPV1 (トランジェント受容体ポテンシャル・バニロイド1 別名カプサイシン受容体) とTRPA1 (トランジェント受容体ポテンシャル・アンキリン1) という二つの受容体の過剰発現が原因であることが分かっています。これらの受容体は冷刺激、化学刺激、痛覚を感知するイオンチャネル型受容体で、受容体の刺激によってニューロキニンA、カルシトニン、CGRP、サブスタンスPなどのニューロペプチドの放出され、鼻水、鼻閉などの症状が引き起こされます。

NARをどのように診断するのかですが次の5つの条件があると96%の確率でNARが存在するようです。①35歳になって初めて鼻症状が出現した(これはNARの発症がアレルギー性鼻炎と比べると発症年齢が高く30歳から60歳の間であることから条件として入っています) ②アレルギーの既往歴がない ③春先に屋外で鼻症状がでない ④猫のそばに行っても鼻症状が出現しない ⑤香水や芳香剤(たとえば柔軟剤の香りなど)のそばで鼻症状が増える。ただ事を複雑にしているのがNARと通常のアレルギー性鼻炎の両方とも持っている方がいることです。

NARの治療の部分を読むとアレルギー性鼻炎の治療と重なる部分が多いのですが、面白いことが書いてあります。生理食塩水での鼻うがいはアレルギー性鼻炎では有効とするメタ解析があること。NARの治療として抗コリン剤の点鼻が有効としていること(残念ながら日本には存在していない)。抗ヒスタミン剤のアゼブチンとオロパタジンの点鼻があってNARに有効なこと(オロパタジンの点眼はありますが、両者の点鼻は日本にはありません)。ブデソニド(シムビコートに入っているステロイド)の点鼻がNARに有効なこと(これも日本にはありません)が書いてあります。日本ではNARに有効な薬がありませんのでアレルギー性鼻炎の薬剤を使用するしかないようです。